

宇都宮市立城山中央小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成	・「互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成」の校内研修の充実 ・一人一授業等による「分かる授業」の研究実践 ・『城央小スタンダード』に基づいた授業の展開の研究 ・望ましい学級集団作りと学級活動の充実 ・児童の実態把握と成就感の達成への支援	・「宿題をきちんとやっている」「分かるとうれしい」の平均肯定割合は約90%であった。 ・「進んで話合いに参加している」「先生などの話を最後まで聞いている。」の平均肯定割合が約85%であった。 ・「よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」は72%であった。 ・「勉強して、おもしろい、楽しい」は88%であった。
・基礎的基本的な学力の獲得	・AIドリルや朝の学習時間の充実による基礎・基本の学力の定着 ・算数について4年生以上の学年で習熟度別学習の実施 ・パソコンや辞書などの活用の充実 ・「書くこと」を意識した授業の展開の工夫 ・漢字・計算検定の実施 ・家庭学習の習慣化 ・「家庭学習強化週間」の年2回の実施 ・「ぐんぐん学習だより」発行による家庭との連携	・全教科すべての領域で市の平均正答率より低かった。単元によっては、市の平均正答率よりも高いものもあり、源氏物語の理解は90%を超えていた。 ・どの教科も、記述する解答形式での正答率が低い傾向がある。 ・「宿題をきちんとやり、期限までに提出している。」の肯定割合は95%を超えて良好であるが、上学年になると約7割に下がる。 ・平日の家庭学習時間が「学年の目標時間」に達しない児童の割合が、1年42.9%、2年15.7%、3年40.9%、4年19.1%、5年51.8%、6年61.8%であった。学校全体の傾向として、「ほとんどしない」「10分程度」が多い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・「勉強が好き」という質問の肯定割合が76%であることをふまえ、多くの体験から深く学ぶことができるような授業展開を今後も工夫していく。

・すべての教科領域において基礎・基本の力が十分ではなかった。今後も児童の『一人一人が分かる授業』を目指し授業力改善に取り組むとともに、すべての教科で基礎・基本の定着を図る工夫を行い、分かったことから考えをまとめて書く力、文章にする力の育成に努める。

・家庭学習への取組については、次年度も継続して指導を行い、学習の習慣化を促進する。また、基礎・基本の力の確実な定着へつながるよう朝の学習等の時間の活用と内容の充実を図る。特に「書く」ことの指導を重点的に行っていく。

・話合いを深める手立てとしてクロームブックを活用したり、AIドリルなどを用いて繰り返し学習を行ったりすることで基礎・基本の力を育成していく。今後もクロームブックの活用に努めていく。